

日本クールシニア推進機構提言2017

シニアによるイノベーション 創出を目指して

～若手プロジェクト×クールシニア 2回の
ワークショップから生まれた提言～



不安な個人、立ちすくむ国家
～モデル無き時代をどう前向きに生き抜くか～

平成29年5月

経済産業省次官・若手プロジェクト

2017年10月

一般社団法人日本クールシニア推進機構

目次

1. 多様なイノベーションの必要性.	1
1.1 我々、日本クールシニア推進機構提言2017分科会メンバーの問題意識.	1
1.2 産業構造審議会「新産業構造ビジョン」～一人ひとりの、世界の課題を解決する日本の未来～（平成29年5月30日）より抜粋.	1
1.3 経済産業省フロンティア人材研究会報告書（平成22年3月）より抜粋.	1
1.4 経済産業省「消費者理解に基づく消費経済市場の活性化」研究会（消費インテリジェンス研究会）報告書より抜粋.	1
1.5 多様なイノベーションの必要性.	1
2. 提言.	2
2.1 クールシニアズ・イノベーション.	2
2.1.1 逆転の発想.	2
2.1.2 “賢い”“カッコいい”高齢者（＝クールシニア）.	2
2.2 クールシニアが寄与できるイノベーション.	2
2.2.1 イノベーションの受け手（ユーザーイノベーション）.	2
2.2.2 イノベーションの担い手（若者に無い能力を活かして）.	2
2.2.3 イノベーションへの支援（消費者・投資者として）.	2
2.3 多様なイノベーションを起こす人（クールシニア）づくり.	3
2.3.1 志高いシニア人材の集結を図る.	3
2.3.2 パーソナル・リブランディングで戦力化.	3
2.3.3 国・企業への要望.	3
2.4 クールシニアズ・イノベーションを絶え間なく創出するための仕組みづくり.	3

2.4.1 クールシニアズ・イノベーション実践イニシアティブ（仮称）の創設.	3
2.4.2 クールシニアズ・イノベーション実践イニシアティブ（仮称）の取り組むテーマ.	3
2.4.3 企業との関係.	3
2.4.4 地域・行政との関係.	3

APPENDIX

APPENDIX 1：提言提出に至る経緯.	4
1.1 経済産業省次官・若手プロジェクト×クールシニア ワークショップ第1回（2017.7.4）.	4
1.2 経済産業省若手プロジェクト×クールシニア ワークショップ 第2回（2017.8.29）.	4
1.3 日本クールシニア推進機構提言2017分科会.	5
APPENDIX 2：一般社団法人日本クールシニア推進機構概要.	6
APPENDIX 3：一般社団法人日本クールシニア推進機構パンフレット.	7



1. 多様なイノベーションの必要性

1.1 我々、日本クールシニア推進機構提言2017分科会メンバーの問題意識

我が国産業の競争力が向上しないのは、その他諸々の原因があるかも知れないが、最大の原因の一つはイノベーション力が低いことにあるのではないかと考えます。

1.2 産業構造審議会「新産業構造ビジョン」～一人ひとりの、世界の課題を解決する日本の未来～（平成29年5月30日）より抜粋

- ・現状放置のままでは、市場を喪失し、仕事の量は減り、質も低下。即ち、AIやロボット等を創り、新たなビジネスのトレンドを創出する（付加価値の高い）仕事は海外に流失し、従来型のボリュームゾーンである低付加価値な製造ラインの工具・営業販売・バックオフィス等はAIやロボットで代替され、AIやロボット等に代替されうる多くの仕事が低賃金化（P16）
- ・打ち破るべき壁③世界から取り残される科学技術・イノベーション力⇒その壁を打ち破った先に、どのような社会を目指すのか：絶え間ないイノベーションにより、成長と格差是正の両立を実現する世界に類を見ない社会。（P18）

1.3 経済産業省フロンティア人材研究会報告書（平成22年3月）より抜粋

- ・1. グローバルな動向 背景には世界的環境変化があり、その影響で技術探索型イノベーションに加えて“ユーザー起点イノベーション”を重視することが求められている。（P40）

1.4 経済産業省「消費者理解に基づく消費経済市場の活性化」研究会（消費インテリジェンス研究会）報告書より抜粋

- ・企業と消費者の共創的な取組・企業と消費者と一緒に共同開発をする（P35まとめ）
- ・政府の取組・消費インテリジェンスを高めるための基盤整備【イノベーションプラットフォームの構築の促進】（P35まとめ）

1.5 多様なイノベーションの必要性

- ・世界の流れに乗り遅れないためには、技術開発によるイノベーションのみでなく、人材マネジメント、社会経済システム変革、生活様式・行動様式の刷新など、多様なイノベーションが必要であると考えます。
- ・更には、イノベーションの担い手も大学、研究機関および企業の科学技術畑の若い研究者に限定せず、幅広い世代に求めていくべきではないかと考えます。
- ・即ち、「多様な分野のイノベーション×多様な世代によるイノベーション＝多様なイノベーション」が必要です。

超高齢社会の進展の中で、高齢者が単に消費者・サービスの受け手に留まるのではなく、自分たち自身が新たなイノベーションを生み出す仕組みづくりが必要。

2. 提言

2.1 クールシニアズ・イノベーション

2.1.1 逆転の発想

- ・ イノベーションは若者だけの特権ではありません。イノベーションは多様であり、高齢者こそが担えるイノベーションが存在します。
- ・ 若者に助けられる高齢者ばかりでなく、若者を助けることができる高齢者を創り出す必要があります。

2.1.2 “賢い”“カッコいい”高齢者（＝クールシニア）

- ・ 高齢者の在り方の変革こそが、一つの大きなイノベーションです。
- ・ 高齢者には、“古い”“頑固”というイメージがありますが、柔軟で、新しいものを積極的に取り入れる人も普通にいます（実際、それは若者も同じです）。なにより、「現在の社会が今の姿であることの何か」を創出した経験を持っている人が大勢います。
- ・ 特に、組織の束縛から離れ、「義憤や面白がりなどのこだわり」を持ち、「存在はしているが、埋もれて存在している可能性が高い」イノベーション人材（定義は、経済産業省「フロンティア人材研究会報告書」（H24）より抜粋）が大勢いると考えられます。
- ・ 課題は、このような人々を発掘、ネットワーク化し、イノベーション創出のための「学びなおし」と「活動の場」を提供することではないでしょうか。

2.2 クールシニアが寄与できるイノベーション

私たちは以下の3つのイノベーションを総合して『クールシニアズ・イノベーション』と呼ぶことにしました。

2.2.1 イノベーションの受け手（ユーザー・イノベーション）

- ・ エンドユーザーとしてアンケート調査・フォーカスグループ・行動観察に参加してイノベーション創出に参画。
- ・ ユーザーとしての、超高齢社会における新たな市場・産業の開拓。
- ・ 多様な分野の経験の活用。

2.2.2 イノベーションの担い手（若者に無い能力を活かして）

- ・ 特定の分野における専門的知識&経験。
- ・ 豊富かつ幅広い社会的知識&経験。
- ・ 多様な人脈&優れたコミュニケーション能力。
- ・ イノベーションを促す優れたマネジメント能力。
- ・ 多様な社会課題、人々のニーズを解決しようとするモチベーション
- ・ 「高台から飛び降りることを専門とするマウンテンバイカーで整形外科でもある人は、この両分野からの情報を抛りどころとしたイノベーションを起こそうとするだろう。つまり、ジャンプの着陸時にバイカーの背骨にかかる衝撃を和らげるシート・サスペンションを作り出すかもしれないのだ。（中略）異なる職業を持つ人の場合は（たとえば、この人が航空技術者だとすると）、整形外科医とは異なる情報を抛りどころとする可能性が高く、その結果、別のイノベーションを起こすだろう」（von Hippel 2005）（日本語訳は、マーケティングジャーナルVol.36（2017）p3）

2.2.3 イノベーションへの支援（消費者・投資者として）

- ・ 自分にあったもの、自分に共感できるもの、体験得られるもの、等の商品・サービスの積極的購入や、それらを提供する企業の応援。
- ・ クラウドファンディングなど、自らが共感できる、社会・地域イノベーションへの投資。（経産省「消費者理解に基づく消費経済市場の活性化」研究会（H29）より）
- ・ シニアが気持ちよくお金を出せる投資の仕組みづくりもイノベーションのテーマ。

2.3 多様なイノベーションを起こす人（クールシニア）づくり

2.3.1 志高いシニア人材の集結を図る

- ・ 先ず第一に志。未来の子ども達のために心豊かな社会を創りたいと思っているシニア、残りの人生を未来の子ども達のために尽くせる人たちを募る。
- ・ 人生の中で、本当にイノベーションに寄与してきた人材（社会が今の姿になったことに何らかの形で寄与した人々）を名声や肩書きには関係なく集める。
- ・ 現役時代は仕事中心・会社中心だったが残りの人生は社会のために役立てたいと思う人たちも参加してもらう。

2.3.2 パーソナル・リブランディングで戦力化

- ・ 志は高くとも殆どの方そのままではイノベーション人材たり得ない。まずは以下のようなワークショップで長年身につけた固い殻を打ち破りチームで活動する柔軟性、コミュニケーション力、方法論を身につける。
 - 1) 傾聴（上から目線と自慢話を止め、他を尊重し人の話を聴く）
 - 2) ファシリテーション（場のデザイン・話を引き出す・合意形成・行動に結びつける）
 - 3) 最先端イノベーション方法論（KAOSPILOTなど）
- ・ 企業・地域などの実践の場でスキルアップを繰り返す

2.3.3 国・企業への要望

- ・ 国：定年退職に対して、再就職支援の技能習得ではなく、イノベーション力を向上させるような政策・経営の推進を望む。
- ・ 企業：退職前社員に対する学び直しや人材交流の活発化を望む。

2.4 クールシニアズ・イノベーションを絶え間なく創出するための仕組みづくり

2.4.1 クールシニアズ・イノベーション実践イニシアティブ（仮称）の創設

- ・ 2.3.1項の志高いシニアだけでなく幅広い年齢層の人材を多数集めてコミュニティを形成する。
- ・ イノベーションの共通言語（KAOSPILOTなど）を共有化する。

2.4.2 クールシニアズ・イノベーション実践イニシアティブ（仮称）の取り組むテーマ

- ・ 机上の空論ではなく、各自の実経験を活かした本物の調査・研究・イノベーション創出・実践・評価までをオープンイノベーション2.0方式で行う。
 - 1) シニアが参加する実践イニシアティブならではのイノベーション創出方法論の実践研究
 - 2) 従来とは全く異なる新しい高齢者ライフサポート（エンディングサポート）・サービス
 - 3) 地域や社会の問題解決に繋がるイノベーションの創出、プロトタイピング、リビングラボ実践（ビンテージソサエティへの参加）
 - 4) 企業と連携した超高齢社会に向けた新ビジネスの創出
 - 5) 企業の人材養成に対するテーマ
 - ・ 退職後も再活躍可能な人材としての退職者輩出基準を義務化する制度の研究
 - ・ それを法制化する人財リサイクル法案の検討（悪い意味ではなく良い意味での人材活用。法律名は要再考）
 - 6) シニアが気持ちよくお金を出せる投資の仕組みづくり
 - 7) その他、「地域×クールシニア×企業で、心豊かな未来を創る！」に寄与するイノベーションの創出

2.4.3 企業との関係

- ・ 地球規模で進む超高齢社会化に向けて、我が国に於いて一足早く高齢者起点の製品・サービスのイノベーションを協働で推進する。

2.4.4 地域・行政との関係

- ・ 地域・行政の課題解決に繋がる多様な視座のプラットフォームの構築を支援する。
- ・ 各地の活動団体のネットワーク化・人の交流・創発のハブとなる。

APPENDIX 1. 提言提出に至る経緯

1.1 経済産業省次官・若手プロジェクト×クールシニア ワークショップ 第1回 (2017.7.4)



経済産業省「次官・若手プロジェクト」では、「現代の社会システムは、ある年齢で区切って一律に『高齢者＝弱者』として扱い、個人に十分な選択の機会が与えられていない」と現状を分析し、「高齢者が支える側から支える側へと転換するような社会を作り上げる」とともに、「（年齢に関わりなく）意欲と能力ある個人が『公』の担い手」として社会参画を促すことを提言しました。

他方で、現場では、「健康意識が高く、新しいことにチャレンジし、役割を持って貢献し、多世代と積極的にかかわり、シンプルで自律的な生活を意識して行動する『クールシニア』を増やそうとする取り組み」が始まっています。

今回、繋がる問題意識を持っている経産省の若手と、ちょっとアクティブな普通のシニアが一緒になって、今後若者とシニアが共に活躍できる環境づくりを考えるためのワークショップを実施しました。

<ワークショップ概要>

■日時 2017年7月4日（火）15:00～17:10

■場所 経済産業省別館1階114会議室

■目的 人生100年時代に若者とシニアが協働できる仕組みづくりを考える

■参加 クールシニア・クラブに参加するちょっとアクティブな普通のシニア
＋「次官・若手プロジェクト」メンバーをはじめとする経済産業省
若手職員 計26名

■アジェンダ

1. 趣旨・進行説明

2. 話題提供

①「不安な個人、立ちすくむ国家」について
（経産省「次官・若手プロジェクト」）

②「クールシニア・ムーブメント」について
（一般社団法人日本クールシニア推進機構）

3. ワークショップ

テーマ：人生100年時代に若者とシニアが協働できる仕組みづくりを考える

6名×4組に分かれてグループワーク

WS1：人生100年時代の課題は何か

WS2：若者とシニアが協力できることは何か？

WS3：若者とシニアが協働できる仕組みづくりの具体的なアイデア

4. 意見交換



1.2 経済産業省若手プロジェクト×クールシニア ワークショップ 第2回 (2017.8.29)



前回（7月4日）アンケート結果を受け、より具体的なテーマを受け、より具体的なテーマで、ミドル層の参加者を増やして、人生100年時代にシニアが生き活きと活躍できる環境づくりを考えるためのワークショップを実施しました。

<ワークショップ概要>

■日時 2017年8月29日（火）17:00～20:00

■場所 経済産業省別館3階310会議室

■テーマ 人生100年時代のシニアの付加価値労働主体※への変革に向けて

※印：我が国経済成長を主導する人材

■参加 クールシニア・クラブに参加するちょっとアクティブな普通のシニア+「次官・若手プロジェクト」メンバーをはじめとする経済産業省若手職員 計24名

■アジェンダ

1. オープニング
2. 自己紹介・チェックイン
3. 話題提供：今回のテーマを選んだ理由
4. グループワーク説明
5. グループワーク1：学び直しの仕組みはどうあるべきか？
6. グループワーク2：企業側はどのような環境を整えるべきか？
7. グループワーク3：中年世代から準備しておくべきことは何か？
8. 振り返り・意見交換



1.3 日本クールシニア推進機構提言2017分科会

若手プロジェクト・メンバーをはじめとする経済産業省若手行政官との2回に亘るワークショップの結果を踏まえ、ワークショップに参加したクールシニア・メンバー有志で、日本クールシニア推進機構会議室に於いて、以下の日程で6回の分科会を開催し、本提言を取り纏めるに至りました。

1) 2017年9月12日（火）15:00～17:30

2) 2017年9月19日（火）18:30～22:00

3) 2017年9月25日（月）18:30～22:00

4) 2017年10月2日（月）14:00～16:00

5) 2017年10月10日（火）16:00～18:00

本提言は、「みんなが生き生きと元気に幸せを実感して生きられる社会を実現し、子ども達が『この国に生まれて良かった！』と思える未来の仕組みを創りたい。」というクールシニアの素朴な思いから生まれました。一人でも多くの方にご賛同いただき、実現に一步でも近づければ参加メンバーにとって望外の喜びです。



APPENDIX 2：一般社団法人日本クールシニア推進機構概要

■設立

- 平成28年2月26日
- 平成26年4月よりスタートした三菱総合研究所プラチナ社会研究会レガシー共創協議会クールシニア・ムーブメント・プロジェクトを母体に、クールシニア人材を養成し、その活躍の場を開拓・提供し、世界へ発信するという活動を積極的かつ恒常的に行うために法人化

■組織

クールシニア・クラブ（クールシニア・ムーブメントに参加する個人会員の組織）、クールシニア法人クラブ（同じく法人・団体会員の組織）、それらを運営する日本クールシニア推進機構の3つの組織で構成

■日本クールシニア推進機構役員（平成29年10月1日現在）

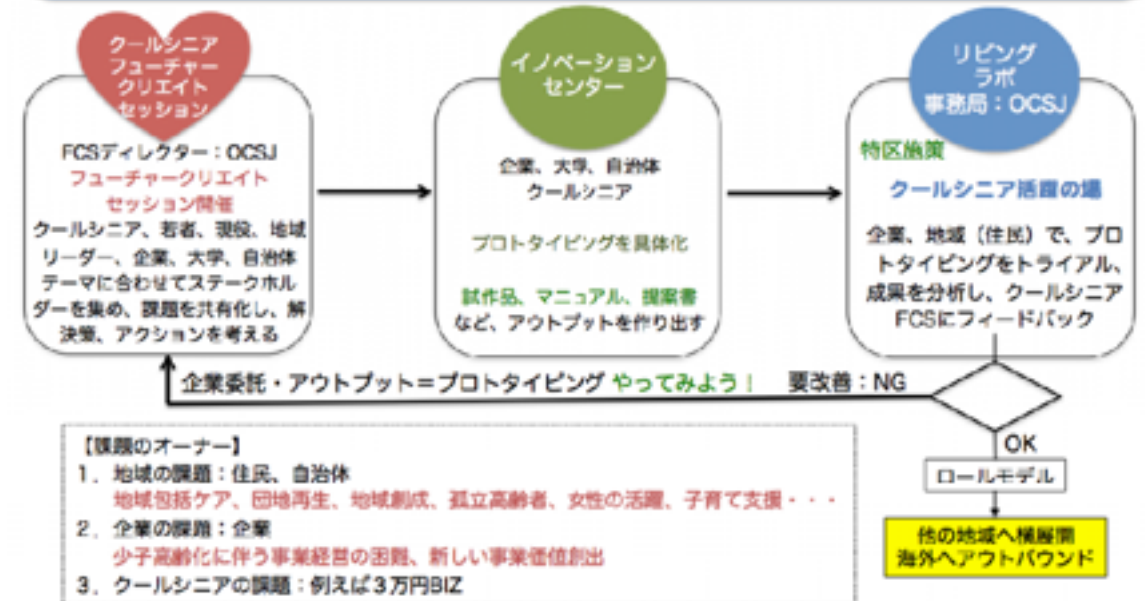
代表理事：柳 久美子
専務理事：新村 純一
理事： 稗田 素行
監事： 飯塚 洸子

■法人正社員（敬称略・順不同）

株式会社LIXIL
近畿日本ツーリスト株式会社
株式会社アサツー ディ・ケイ
株式会社ワコール
アサヒグループホールディングス株式会社
富士通デザイン株式会社
株式会社 市進ホールディングス

■クールシニア・フューチャークリエイトセッション

目的：クールシニア・ムーブメントを起こし、制約のある中で心豊かな暮らしを実現できる未来をつくり、次世代に引き継ぐためのアクションの起点となること



第1回 2017年3月18日 地域×クールシニア×企業で、心豊かな未来を創る！クールシニア・フューチャークリエイトセッション in Yahoo! LODGE (2017.3.18)

テーマ：ICT、インターネット、AIを活用して超高齢社会の課題を解決する社会イノベーションのアイデアをみんなで考える。

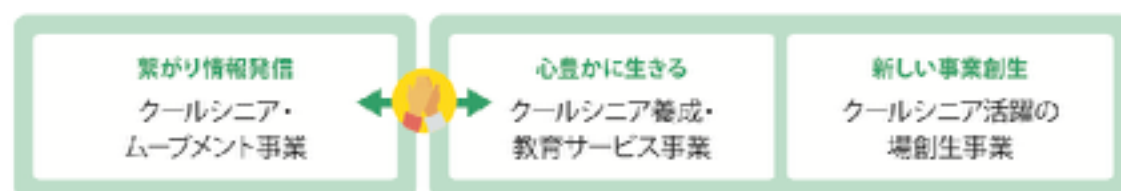
■クールシニア特派員



クールシニア特派員養成初級講座を受講したクールシニア特派員が各地のクールシニア的な活動を行っている個人・団体、お店および企業などを取材して制作したビデオレポートをYouTube Cool Seniors Reporter's channel および機構ホームページで発信中。

日本クールシニア推進機構事業ドメイン

クールシニアで多世代、地域×企業、地域×地域が繋がり循環する
心豊かな社会への変化を起こす事業



クールシニア・クラブ会員(個人)、クールシニア法人クラブ会員向け
安心・安全・支援事業



クールシニア・クラブ会員(個人)、クールシニア法人クラブ会員の募集

OCSJでは、個人、法人のクラブ会員を募集しております。クールシニア・ムーブメントにご賛同頂き、ご自身もクールシニアを目指して学び、活動したい個人の方は「クールシニア・クラブ」へお申込ください。

クールシニア・ムーブメントを推進する社会に向けた新商品・サービス開発や新しい事業ドメイン開発のチャンスと捉えてご参加になりたい企業や団体は「クールシニア法人クラブ」へお申込ください。

入会申込方法

OCSJホームページ「会員と入会」メニューの申込フォームよりお申込ができます。

個人会員	法人会員
OCSJホームページの「クールシニア・クラブ会員に申し込む」ページから	OCSJホームページの「クールシニア法人クラブ会員に申し込む」ページから

組織個人・法人会員の募集は、組織が認めた場合のみとなります。詳しくは、OCSJホームページをご覧ください。

日本クールシニア推進機構について
一般社団法人日本クールシニア推進機構（Organization for Cool Seniors in Japan：略称OCSJ）は、元気でホッとする新しい「クールシニア」のモデルを構築し、社会をより良くするエンジンとなり、「地域×クールシニア×企業で、心豊かな未来を創る！クールシニア・ムーブメントでシニア世代のソーシャル・イノベーションを起こす、社会共創型企業（Social Enterprise）」です。

機構法人正社員（専任・兼任）

株式会社LIXIL
近畿日本ツーリスト株式会社
株式会社アサツー ディ・ケイ
株式会社ワコール
アサニグループホールディングス株式会社
富士通デザイン株式会社
株式会社市瀬ホールディングス
日本高齢者学会有限責任事業組合

事務局・お問い合わせ

OCSJホームページ

<https://cool-seniors.org>

〒108-0023
東京都港区芝浦3-15-1 シティアラス田町901
☎ 03-5444-2273 ✉ info@cool-seniors.org

一般社団法人

日本クールシニア推進機構

地域×クールシニア×企業で、
心豊かな未来を創る！

私たち日本クールシニア推進機構は、
超高齢社会に向けて「心豊かに生きる」ための
学びと活躍の機会を創生します。

クールとは、「心地いい」「イキイカ」という意味



クールシニアとは？

健康意識が高く、新しいことにチャレンジし、役割を持って貢献し、多世代と積極的にかかわり、シンプルで自律的な生活を意識して行動しているシニアのこと (2017年度版定義)

私たち日本クールシニア推進機構は、
クールシニアを目指す40代以上を対象にしたクールシニアの募集、
養成およびクールシニアの会員組織「クールシニア・クラブ」の運営を行います。

クールシニアのライフスタイル

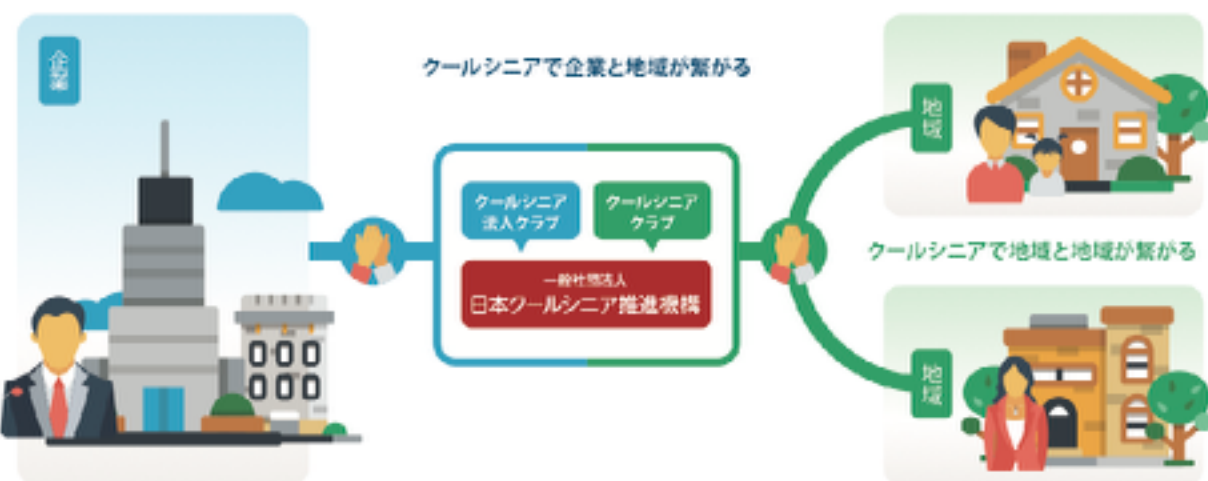


クールシニアが目指すもの

地域とクールシニアと企業が緩やかなネットワークを形成し、みんなが生き生きと元気に幸せを実感して生きられる社会を創るためのソーシャル・インパクトを引き起こすこと。子ども達が「この国に生まれて来て良かった！」と思える未来を残すことが私たちの願いです。1964年の東京五輪当時は世界で最も若い国だった日本が、2020年には世界で一番の超高齢先進国ともなります。2019年～2021年のゴールデン・スポーツイヤーズに日本を訪れる世界の人々が、超高齢社会が抱える深刻な問題の数々をどのように日本は解決しようとしているか？関心を持って観ることでしょう。

OCSJは2020年に向けてクールシニア・ムーブメントを起こすべく活動を始めています。

※ ソシアル・インパクト(Social Impact)とは、特に、企業による社会との共有価値の創造に力を通して、社会におよぼす影響力を指す。社会的影響力、社会的インパクト。(出典：デジタール大辞典)



① 主な活動

クールシニア・フューチャークリエイティブセッション (CSFCS)

クールシニアと企業、世代や組織を超えた多様なステークホルダーが集まってテーマに沿って未来志向で対話し、そこから創発されたアイデアを次世代に引き継ぐためのアクションの起爆点としてクールシニア・フューチャークリエイティブセッション (CSFCS) を実施します。テーマオーナーは、自治体・地域のグループ、クールシニア法人クラブ会員、クールシニア・クラブ会員。実施日は、原則2ヶ月に1回。



サクセスフル・エイジング・コミュニティ みなと大学 (SAC)



SACみなと大学は、『健康で、賢く、美しく、楽しく、豊かな』シニアライフを実現するために必要とされるあらゆる情報や知識、スキルを学びの場とし、さらにみんなで新しい商品やサービスの開発にも参加でき、みんなの日課で「サクセスフル・エイジング」を考えていく、2011年にスタートしたコミュニティの場です。若年層は時給を低く、シニア層には高くもっていきながら学びの場を会員と共につづけています。2011年5月～2017年3月まで全75回の講座を実施しております。

人生100年時代のリブランディング クールシニア・リブランディング講座

ミドル層の社員がリブランディングして組織を元気にするための講座です。レゴ®シリアスプレイ®と、HumanFinderとの組合せで社員個人と組織の力を見える化することで一番パワーを発揮できる組織作りを検討できます。なぜクールシニアかというと、退職前の40代50代から退職後を意図して変化に対応できるようにリブランディングする事で企業の能力にもなるし、そのままクールシニアで活躍できるからです。



クールシニア特派員

クールシニア特派員養成初級講座を受講して会員になると、クールシニア特派員になれます。クールシニアな活躍している人や地域で頑張っている人を取材したり、企業からの依頼で取材に出向いたり、特派員としての活躍の場は色々あります。



これまでの実績

SACみなと大学分科会として6年間で8企業と15のプロジェクトで成果を出しております。



ニッセンのキャリーバック、シューズの商品開発



ソフトバンクのシニアクルー



ニチレイフーズのガイドブック制作



ご連絡先

〒108-0023

東京都港区芝浦3-15-1 シティテラス田町901号

一般社団法人日本クールシニア推進機構

mailto : info@cool-seniors.org

phone : 03-5444-2273

url : <http://cool-seniors.org>